

言葉の発音について

「どうしてあの子は発音の練習をしているのに、うちの子はしないの?」と疑問に思われることがあるかもしれません。今回はそんな疑問にお答えし、言葉の練習の基本的な考え方についてご説明します。

<発音を獲得する順序> 子どもの発音は順を追って少しづつ育っていきます。

最初は「マンマ」「ブーブー」等の唇を閉じて出す音から始まり、舌を細かく動かす必要のある音は使えるようになるのに時間がかかります。

2歳まで	マ・バ・パ・ヤ・ワ・ナ行、 タ・テ・ト・ダ・デ・ド
2~4歳	カ・ガ・チャ・シャ・ジヤ・ハ行、 チ・シ・ジ
5~6歳	ラ行 サ、ス、セ、ソ、ザ、ズ、ゼ、ゾ、ツ、

この順序はあくまで目安で、個人差があります。順序が前後することがあります。

知的発達に遅れのある場合は、生活年齢ではなく言語の発達年齢に合わせて考えます。たとえば、生活年齢が6歳でも言語発達が3歳頃なら、ラ行の発音ができなくても自然なことですので、無理に訓練しなくともよい場合があります。



<構音訓練ができる条件>

構音訓練は、すべての子どもに同じように行えばよいわけではありません。

効果が出やすいのは、次のような条件がそろっている場合です。

- ① 発達が4~5歳以上で、訓練に取り組めること
- ② できれば文字が読める
- ③ 発音はおおむねはっきりしていて、誤りが一部の音に限られている
- ④ 子ども自身が発音の誤りに気づいて、生活で不便を感じている
- ⑤ 発音を良くしたいという意欲がある



発達年齢が5歳程度になると、自分の発音を聞いて誤りに気づき、修正する力が育ち始めます。

また、文字が読めると、言葉を見ながら発音を確認できるので、訓練が進めやすくなります。

何よりも大切なのは、子ども本人が「発音を良くしたい」と思っていることです。

<ことばの基礎作り>

「発音の練習はまだ難しいけれど、声が小さい、口の動きが弱い」など心配なことがある場合は、生活の中で、次のような遊びや工夫を取り入れてみましょう。

●呼吸コントロールを育てる

- ・ストローで飲み物を吸う
- ・熱いお汁を吹いて冷ます
- ・笛やシャボン玉、吹きゴマなどの遊び
- ・歌や長く声を出す競争
- ・全身運動で体幹をしっかり育てるのも大切です。



●舌や唇の動きを育てる

- ・飲み物をスプーンやコップからすすって飲む
- ・噛み応えのあるものによく噛んで食べる
- ・食物を歯の上に送る、唇についたものをなめ取るなどの動きも効果的です

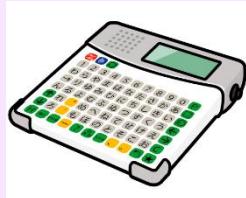
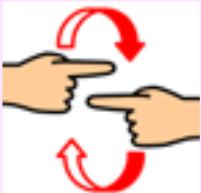


<拡大代替コミュニケーション手段(AAC)の活用>

たくさんの音で発音が不明瞭な場合、発声器官のしくみや聴覚に、原因があることがあります。このような場合は、練習だけで完全に改善することは難しいこともあります。

もし、「言いたいことがうまく伝わらなくて困っている」様子があるときは、手話や簡単なジェスチャー、絵カード、筆談、音声をだす機械など、言葉以外の方法と一緒に使うといいでしょう。

こうした方法を取り入れることで、気持ちや考えを伝えやすくなり、本人の安心感や自信にもつながります。



<脳の働きと言葉>

最後に大切なことを一つ。

言葉をつかさどるのは大脳皮質の言語野ですが、不快さや生命の危機などの恐怖を感じるとその働きが抑制され、代わりに「生きるために必要な行動」が優先されます。



お腹がすいている時には食べること、ライオンに追いかけられているときは、逃げることが最優先になりますよね？



言葉の学習をするためには、体の健康と安心できる環境が大切です。

ですから叱ったり怒ったりするよりも、

「怒らずどうしたらいいのかを教える」、
「できたことをほめる」方が効果的です。



言葉の育ちのためには、本人が安心できる環境で、本人が興味を持ったものについて、楽しくお話をすることが大切です。その時には、口の動きを見せ、はっきりした発音で話しかけるとよいでしょう。



他の子と比べて焦る必要はありません。

発音の誤りはあっても、まずは楽しく話せる環境を作りましょう。

何か御心配なことがあれば、学校にご相談ください。